乳幼児の世界・絵本の世界
—保育の中で果す絵本の役割—

企画・代表　横山文樹（保育分科会・昭和女子大学）
話題提供　寒河江芳枝（浦和大学）湯浅阿貴子（太子幼稚園）　守　巧（東京福祉大学）
指定討論者　田島信元（白百合女子大学）　勝浦範子（国学院大学栃木）

趣旨

幼稚園、保育所を問わず、いわゆる保育場面では、数多くの絵本の読み聞かせが行われている。また、読み聞かせの場面も様々である。また、そこで使用される絵本は保育者によって選択されている。

つまり、乳幼児がどのような絵本に出会うかは、その保育者のセンス・好みに任されているといってよい。しかし、子どもの発達にとって絵本が重要な役割を果たすことを考えるなら、「保育中で扱われる絵本」について、内容、質、場面などあらゆる角度からの突き詰めた議論が必要ではないかと考える。

そこで、本ラウンドテーブルでは、保育現場体験者、研究者のそれぞれの立場から、保育の中で行われる絵本の読み聞かせについて、話題提供していただき、保育の中で果たす絵本の役割について考察を深めたい。

話題提供

幼児の絵本環境の現状と課題（太子幼稚園　湯浅阿貴子）

現在、多くの幼稚園や保育所では絵本を保育に導入している。また、家庭に絵本を持つ幼児も少なくないだろう。幼児が絵本を見る（読む）ことは、身近な大人が環境に絵本を取り入れることから始まる。したがって、身近な大人の「絵本観」のようなものが、幼児の絵本に対する親しみ方に影響を与えていると考えられる。今回、幼稚園において集団で絵本に触れる場と、家庭という個々に絵本に触れる場において、現在幼児期の子どもがどのように絵本に接しているのか、幼児を取り巻く環境という視点から実践と現状を報告できればと考えている。

気になる子どもと絵本（東京福祉大学短期大学部　守　巧）

子どもの成長・発達において絵本の読み聞かせは，重要であり，保育現場で盛んに行われている。それは，絵本を介して保育者と子どもたちとの心を通わす親密な人間関係の構築が促される。子どもが絵本を理解して楽しめる背景には，絵本がもつ特性と子ども側の特性が強く関係している。“落ち着きがない”などの「気になる子」の場合，「興味の偏り」「登場人物の感情理解困難」「時系列的情報の統合」等の理由から絵本理解が難しい。「気になる子」がいるクラスでの読み聞かせ場面における環境設定や導入，過程と読後についての工夫を共有していきたい。

1・2歳児の絵本の読み合い場面における保育者の役割（浦和大学　寒河江芳枝）

絵本は、子どもと母親（養育者）、子どもと保育者、子どもと子どもなどを繋ぐ教材の１つである。今回は、1・2歳児のクラスを観察するなかで、絵本を媒介に子どもと保育者、あるいは子どもと子どもの関係からどのような育ちが見られるかということについてエピソードをもとに報告したい。1・2歳児のクラスなので複数担任であり、保育者が絵本を読む場合、数名の保育者が絵本を読んでいる。絵本を読むにあたって、1・2歳児の子どもへの保育者の役割について紹介し、検討を深めていきたい。